

VR・プロジェクションマッピングのパイオニア 医療・航空・自動運転等へ領域を拡大中

創業は2006年。映像技術者のパイオニアとして、バーチャルリアリティ、プロジェクションマッピング等に取り組んでいる。映像制作分野において同業他社に先んじて参入したことで、企画から制作まで手掛けるノウハウの蓄積は群を抜いており、アミューズメント・ゲーム・医療福祉・ヘルスケア等幅広く活動している。コロナ禍においても在宅ワークをいち早く推進。セキュリティとクリエイターの確保と作業効率の向上により、コロナ禍で拡大するゲームソフト市場の受注も拡大している。

所在地	神奈川県横浜市中区弁天通2-25 関内キャピタルビル601	設立	2006年
電話/FAX	045-222-4633 / 045-222-4622	資本金	7,500万円
URL	http://www.socialassist.jp/	従業員数	20人
代表者	代表取締役社長 志村 和信		



VR・ARにおける事業分野拡大

映像の規格（ハードウェア・ソフトウェア含む）および通信規格の進歩は非常に早く、この規格の開発スピードに合わせてハードウェアおよびソフトウェアを常日頃からアップデートし高度な映像技術を保持し高い競争力を維持している。これによりVR・AR事業の受注は以前アミューズメント・ゲーム業界が主体であったが、現在は航空分野でのパイロット育成用機器、研修医用手術デモ機器等まで拡大。それらの情報を活用し、自動化運転・ロボット等への事業拡大にも取り組んでいる。



事業分野拡大

映像技術のパイオニアとしての先進性と先見性

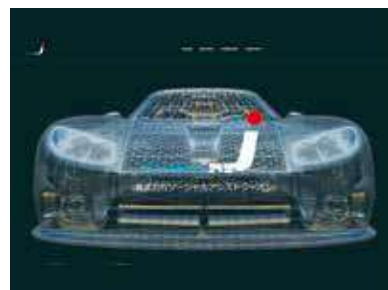
国内・海外を問わず新技術の情報をいち早くキャッチし、市場への導入・汎用化の検討をトップダウンで実行。先進の映像技術をクリエイターと共有できるスキルアップセミナー等を随時開催し、高度な映像技術を保持し高い競争力を維持。有望な人材確保のため映像制作専門学校と連携し、他社に先んじて新入社員を確保できる体制も構築。また、医療分野では病院・ドクター・医療機器メーカーとの連携により新事業分野の開拓を推進する等、各分野の専門家との連携を推進している。



技術の先進性、専門家連携等

在宅ワークの環境整備と移行でさらなる効率化を実現

在宅ワークにシフトする一番の問題点は、制作物の情報漏洩に起因するセキュリティ強化であるが、クライアントの情報漏洩リスクを最小限にとどめるべく在宅ワーク専用の機材を導入した。これによりスタジオ勤務に抵抗を感じていたり、家庭の事情で勤務が難しくなり退職せざるを得なかった有能なクリエイター等を外注（下請け）登用することが可能になり、高度なプロジェクトの獲得が可能となった。在宅ワークの推進による作業環境を整備したことで作業効率も上昇している。



在宅ワーク